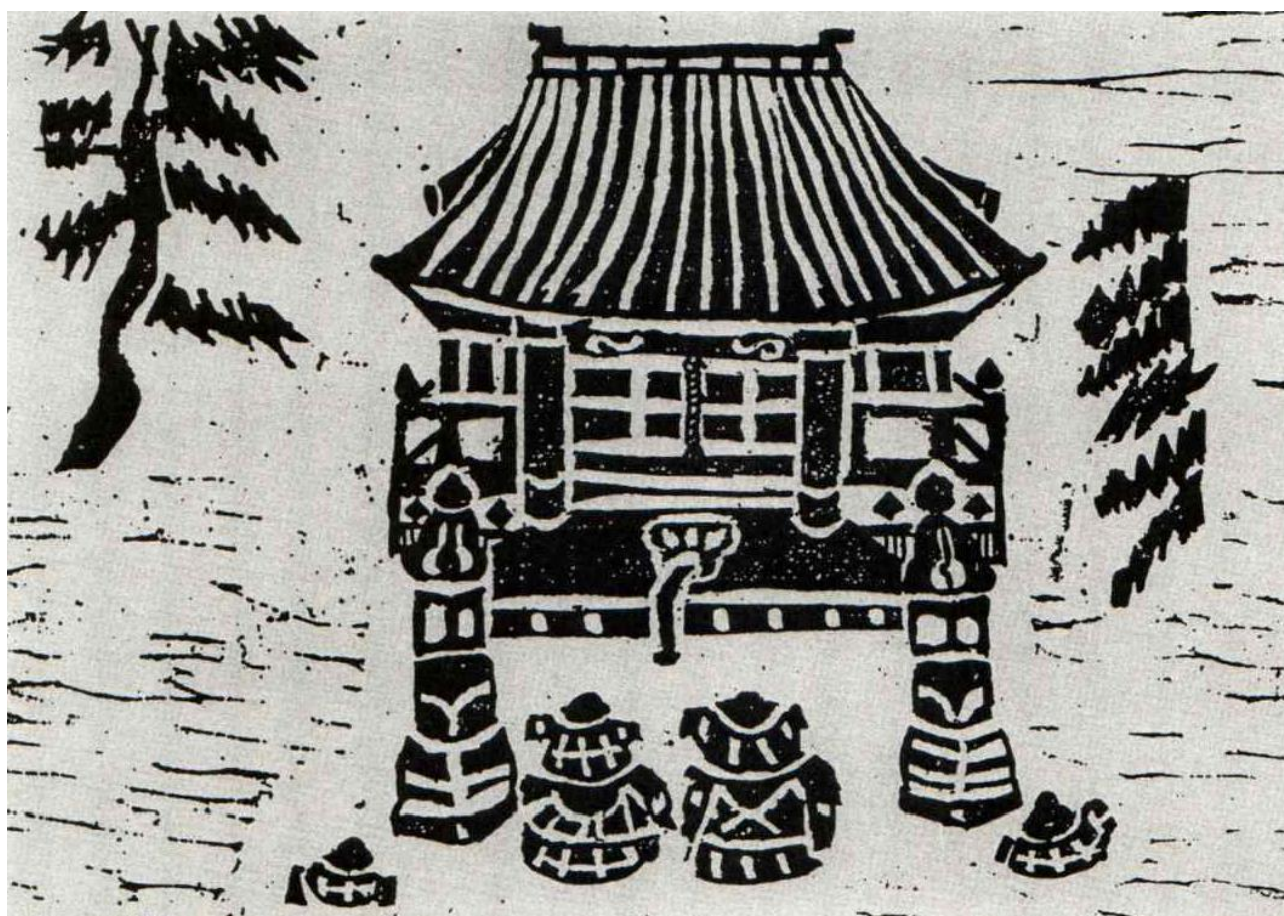


蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

第14回 <sup>き そ よしなか りゅうしょういん</sup> 木曾義仲と龍照院



今回のおうちミュージアムでは、<sup>き そ よしなか よしなか さいけん つた</sup>木曾義仲と義仲が再建したと伝わる<sup>りゅうしょういん</sup>龍照院  
<sup>しょうかい</sup>を紹介します。

(挿絵：『蟹江町制100年記念 蟹江むかしものがたり』(蟹江町、1988年)より)

## ① 木曾義仲ってどんな人？

木曾義仲は、今からおよそ 900 年前の平安時代に活躍した武士です。第13回のおうちミュージアムで紹介した源義朝は、義仲の叔父にあたります。

義仲は源氏の一族で、本名は源義仲といいますが、長野県の木曾谷に住んでいたことから、木曾義仲と名乗っていました。同じく源氏の源頼朝や源義経とは、いとこ同士です。

1180年(治承4年)、以仁王という人が全国の源氏に「平氏を倒す」ように命令を出しました。この命令をうけて、義仲も行動を起こします。

## ② 蟹江に立ち寄った義仲

蟹江町には、義仲に関する次のような伝承があります。

1182年(寿永元年)、義仲は平氏を倒すために京都へ向かいました。その途中で嵐にあった義仲は、蟹江の須成あたりに泊まったそうです。そのときに観音様の夢をみたことから、須成にあった古いお寺を再建することにしました。そのお寺は蟹江山常楽寺といいますが、そしてお寺のご本尊として、十一面観音の仏像もつくらせた、と伝えられています。



### ③ 京都での義仲

義仲は平氏の軍に次々と勝ち、とうとう京都から平氏を追い出します。義仲は後白河法皇から歓迎され、高い地位やたくさんの土地を与えられました。

京都の人たちも、はじめは平氏を追い出してくれた義仲を歓迎しました。しかし、義仲の兵たちが乱暴にふるまうようになると、だんだんと義仲を嫌うようになりました。義仲は乱暴にふるまう兵たちを止めようとしたのですが、兵たちは命令を聞きませんでした。

京都の人たちから嫌われた義仲は、後白河法皇とも仲が悪くなり、源頼朝との仲まで悪くなってしまいます。

さらに、後白河法皇は義仲に京都から出ていくように命じます。この仕打ちに我慢できなくなった義仲は、武力で法皇の自由を奪ってしまいました。

### ④ 義仲の最期

義仲は後白河法皇の自由を奪ったあと、源頼朝と戦うことを決意します。義仲と戦うことになった頼朝は、弟の義経を京都へ向かわせました。はじめは平氏を倒そうとしていた義仲ですが、同じ源氏である頼朝や義経と戦うことになってしまったのです。

義仲と義経は、京都の宇治川で戦いました。義仲は力をしばって戦いますが、敗れてしまいます。そして京都から北陸方面へと逃げる途中、琵琶湖の近くで殺されました。

義仲が京都から平氏を追い出してから、わずか半年ほどの出来事でした。

## ○ 龍照院と十一面観音像

義仲が再建した常楽寺は、広大な敷地をもつお寺で、大きな門や塔のほか、小さな坊や院が18もあったとされています。その一つが、今も須成にある龍照院です。

このように立派な<sup>りっぱ たたず</sup>佇まいだった<sup>じょうらくじ</sup>常楽寺ですが、<sup>せんごくじだい</sup>戦国時代の1584年(天正<sup>てんしょう</sup>12年)におきた<sup>かにえがっせん</sup>蟹江合戦(\*)によりほとんどの<sup>たてものも</sup>建物が燃えてしまい、<sup>りゅうしょういん</sup>龍照院や<sup>ほんぞん</sup>ご本尊の<sup>じゅういちめんかんのんぞう</sup>十一面観音像などが<sup>のこ</sup>残るだけとなりました。それから<sup>げんざい</sup>現在に至るまで、<sup>りゅうしょういん</sup>龍照院では<sup>じゅういちめんかんのんぞう</sup>十一面観音像を<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>まも</sup>守り<sup>つた</sup>伝えています。

また<sup>じゅういちめんかんのんぞう</sup>十一面観音像の内側には、この<sup>ぞう</sup>像が1182年(寿永元年)に作られたことが<sup>しる</sup>記されています。1182年(寿永元年)は、<sup>よしなか</sup>義仲が<sup>かにえ</sup>蟹江に<sup>た</sup>立ち<sup>よ</sup>寄ったとされる<sup>でんしょう</sup>伝承と同じ年です。

(\*) 詳しくは <sup>くわ</sup>おうちミュージアム第8回 <sup>かにえがっせん</sup>「蟹江合戦とは？」 <sup>らん</sup>をご覧ください。



<sup>すなり</sup>須成の<sup>りゅうしょういん</sup>龍照院

<sup>びわこ</sup>琵琶湖のほとりで<sup>う</sup>討たれた<sup>よしなか</sup>義仲ですが、その<sup>ちよくぜん</sup>直前まで「<sup>ともえごぜん</sup>巴御前」という<sup>じよせい</sup>女性<sup>いっしょ</sup>と一緒に<sup>たたか</sup>戦っていた、という<sup>でんせつ</sup>伝説があります。この<sup>ともえごぜん</sup>巴御前とは、<sup>い</sup>いったいどの<sup>よう</sup>ような人なのでしょうか。

この<sup>じかい</sup>続きは<sup>ともえごぜん</sup>次回の「<sup>だいにちによらい</sup>巴御前と大日如来」<sup>しょうかい</sup>で紹介<sup>たの</sup>します。お<sup>たの</sup>楽しみに！